

第5回トラック輸送における取引環境・労働時間改善新潟県地方協議会 議事録

日 時 平成29年3月23日(木) 13時30分～15時30分

場 所 新潟県トラック総合会館 5階 501号室

出席者

長塚 康弘	新潟大学名誉教授(交通心理学)
渡辺 洋一	経済産業省関東経済産業局 産業部中小企業課下請代金検査官 (産業部担当次長 山口 栄二 代理)
北山 晃也	一般社団法人新潟県商工会議所連合会 事務局長 (専務理事 早福 弘 代理)
本間 哲夫	一般社団法人新潟県経営者協会 専務理事
菊地 裕	北越紀州製紙株式会社 新潟工場 製品物流担当課長 (新潟工場 事務部長 金川 貴宣 代理)
上山 賢	北星産業株式会社 営業部 課長代理 (取締役営業部 金子 昌弘 代理)
高杉 陽子	特定非営利活動法人 新潟県消費者協会 事務局長
渡辺 章衛	全日本運輸産業労働組合 新潟県連合会執行委員長
堀川 勝則	日本労働組合総連合会新潟県連合会 地方委員
小林 和男	中越運送株式会社 取締役社長
市村 輝男	長岡トラック株式会社 代表取締役社長
浅間 博	公益社団法人新潟県トラック協会 専務理事
梅澤 眞一	厚生労働省新潟労働局長
斎藤 芳久	国土交通省北陸信越運輸局 自動車交通部長 (局長 江角 直樹 代理)

パイロット事業対象集団

発荷主	A社 執行役員生産管理部長
運送事業者	A社 代表取締役社長
コンサルタント	株式会社ペック協会 代表取締役 本多 亨 水凌 直弘(水凌経営研究所合同会社代表)

1. 開会

(1) 委員変更のお知らせ

○北越紀州製紙株式会社 板垣和彦委員から金川貴宣委員に変更

(2) 欠席委員

○新潟県中小企業団体中央会名古屋委員、全国農業協同組合連合会新潟県本部清野委員が欠席

(3) 開会挨拶

○北陸信越運輸局斎藤自動車交通部長(北陸信越運輸局長代理)

北陸信越運輸局自動車交通部の斎藤です。

本日は、運輸局長の代理として出席させて頂いております。

委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中、本協議会にご出席頂き誠にありがとうございます。皆様方には、日頃より私どもの労働行政並びに国土交通行政に、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、厚生労働省さんの統計になりますが、今年1月の全国における全産業の平均有効求人倍率は1.36倍であるのに対し、自動車運転関係（バス・タクシー・トラックの合計）は2.68倍と、自動車運送業界では労働力不足が深刻な状況となっております。

また、トラック産業は全産業に比べて若手就業者の割合が低く、労働時間は2割以上長い一方、所得は1～2割低くなっており、長時間労働の是正と適正運賃の収受により、トラック産業を魅力ある産業とすることが、若年労働者の確保にとって、大変重要となっております。

これら、長時間労働の是正と取引環境の改善に向けた一環として、一昨年から中央・地方で協議会を立ち上げて議論が進められているところですが、中央では、2月1日に「第5回取引環境・労働時間改善中央協議会及びトラック運送業の生産性向上協議会」が開催され、2月20日には第3回目の「トラック運送業の適正運賃・料金検討会」が開催されているところです。

また、総理官邸主導で「下請等中小企業の取引条件の改善に関する関係省庁連絡会議」が開催されておりますが、トラック運送業の取引条件改善に向けた取り組みとして、「トラック運送における生産性向上セミナー」が開催され、全国9カ所、新潟でも3月3日に開催され約110名、全国で千名を超える方が参加しております。

このセミナーでは、トラック運送事業者の皆様は荷主や元請け運送事業者との価格交渉を円滑に行うためのポイントについての紹介や、トラック運送業の生産性向上方策WGでとりまとめられた手引きを用いて、荷主やトラック運送事業者同士の連携による生産性向上方策や先進事例等について紹介しており、来年度は、トラック協会主催で行われる予定と聞いております。

本日の協議会では、昨年から取り組んでいるパイロット事業の報告がされる予定ですが、この事業が取引環境の改善や長時間労働の改善に結びつきますよう、お願い致しまして開会の挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしく申し上げます。

(4) 第4回協議会書面協議（パイロット事業中間報告）の報告について

○渡辺委員（全日本運輸産業労働組合 新潟県連合会執行委員長）の意見について

Q. 最終配達先が問屋の場合、納品時に先入れ先出しの方法で棚入れまで指示されるケースが多い。商品の種類が多い場合、かなりの手待ち時間が発生することとなる。

@ そのような実態があることは理解している。着荷主についても可能な範囲内で調査した。

Q. アンケートにおいて、「トラック運転者の労働時間が長くなることによるコスト負担」について、荷主・運送事業者共に荷主企業が負担しているとの回答だが、荷主が支払う運賃にどの程度の割合で反映されているのか。また、運送事業者は、従業員の超過勤務手当等を上乘せして荷主に請求しているのか。

@ 荷主、運送事業者間の取引環境に関するところで、今後の協議会の検討にあたり、参考とする。

2. 議題

(1) 新潟県地方協議会におけるパイロット事業について

1) 平成28年度パイロット事業の報告について

コンサルタント説明（(株)ペック協会水凌（水凌経営研究所合同会社代表）

○前年度（発荷主（A）・運送事業者（ア）実施）の改善内容とその効果

- ・新倉庫を増設し借り倉庫を廃止した。
- ・増設倉庫で新たに出荷8バース、倉庫入れ2バースを設置した。

この効果として、一台あたり出荷まで115分の時間短縮となった。

- ・待ち時間の大幅な短縮
- ・積み込み基準時間値で管理出来るようになり、進捗が分かるようになった
- ・管理側の指示が単純化、管理工数も低減

○現状の分析から問題点・改善点と実験結果

- ・発荷主、運送事業者からのヒアリングにより現状分析し、問題点・課題の洗い出し。
- ・予定積込開始及び終了時刻に対して、また、予定ピッキング開始及び終了時刻に対して遅れる場合がある。
- ・ピッキング作業時間が標準時間より長くなる。また作業員によって能率にバラツキがある。
- ・改善策として、「中間ストアを用いたトラック1台分1人ピッキング方式」により最遅時間の平均が15分の時間短縮となった。
- ・中間ストアを運用するには、在庫のロケーションの管理が重要なので、荷主側で商品トレースシステムを導入中であり改善を継続中。

○着荷主の調査報告

- ・着荷主側では専用バースがあるので、荷下ろしはすぐに着手でき、待ち時間はわずかである。

○総括

- ・今回の実証実験では量産ベースでの成果を得るまでには至らなかった。
- ・中間ストアを設置しても2人作業の方が早いですが、作業員の能率アップ等次のステップにつながるためには1人ピッキングを原則にすべき。
- ・着荷主側のサンプリング調査では待ち時間問題は発生していないが、直送便の場合バースの使用時間管理の仕組みが必要と思われる。

○長塚座長

ある程度の問題があったが少しは解決した。

そういう意味で今後も同じような考え方、計画を基に実験などを続けていくと思うが如何か。また、反省点、良かった点等はあるか。

コンサル)

@ 今回のシミュレーションでピッキング方法は15分短縮したことから効果的と考える。実際には荷の量とかアイテム等日々変化しているので、荷主、運送事業者が一体となり日々改善活動をやっていないと理屈道理に行かないので今後も継続するということが前提である。

@ 良かった点は、現場での様々な点を通し改善点が見えてきたこと。

発荷主A)

@ 日々運送事業者と改善を図っていたが、今回参加し、コンサルから違った切り口、見方を指摘され勉強になった。問題、課題をもらったので以後も改善を進めたい。顧客のニーズ、社会情勢が日々変わっていくので、いち早く対応出来るようシステムを構築したい。またこういう機会があれば参考にしたい。

運送事業者ア)

@ ピッキング作業員を減らすこととロケーション管理は以前から荷主と話合いをしていた。倉庫が広くなり、作業手順の方法、ピッキング作業範囲が広がったが、コンサルから見てもらい、中間ストアを設ける等新しい発想で見てもらった点は良かった。運送屋目

線でしか見ておらず、新しい方法に気がついた点は良かった。いい機会をもらい今後も改善を続けていきたい。

○浅間委員（新潟県トラック協会 専務）

コンサルにお願いしたい。

報告書は全国的に展開され、他のトラック運送事業者が好事例集として見る。「ピッキング」（作業）、「才」（単位）という言葉は業務用語として認識しているが、報告書の中に（説明を）入れてもらいたい。他のトラック運送事業者が報告書を見たときに、自社に当てはめてやれるのか、出来るのであればどんな作業か、荷物の大きさ等を出してもらえれば分かりやすい。

○小林委員（中越運送（株）取締役社長）

浅間委員と同様のことだが、「ABC分析」、「中間ストア」という言葉も説明書きをしてもらえればありがたい。どういう経緯で中間ストアが設けられたか、中間ストアへの補充の仕方もご説明願いたい。

発荷主A)

@ ABC分析とは300以上の商品アイテムがあるが、主力となる商品と出が悪い商品がある。A＝主力商品である。わざわざあまり出ないB、C又は良く出るものを中間ストアに置き歩行を少なくしようとするのが狙い。

コンサル)

@ 意見を踏まえピッキング、才量、ABC分析の説明書きを報告書に入れたい。

○渡辺委員（全日本運輸産業労働組合新潟連合会 執行委員長）

運送事業者からピッキング作業員を少なくしたいとの意向があったが、中間ストアを設けると人員を増やさなければいけないとの考えなのか。

コンサル)

@ 出来れば仕組みの中で改善を図り更なる個数低減が図れればと思っている。今の中で実施し、更に人員削減を図っていくということになる。

○小林委員（中越運送（株）取締役社長）

改善基準告示の問題を満足しないケースとはやはり着荷主側ということなのか。

発荷主A)

@ そのとおり。

届け先実績として1100者あるため1ケース事に運んでは意味が無い。業界では細かい荷物に関しては1カ所に集中させる共同配送拠点化（スルーセンター）されているが、スーパー等へ車一台で輸送することや、届け先要望により直送便の時に待ち時間が発生することもある。特に関東付近の間屋さんにはバースを持っていないため実態として待機時間が非常に伸びている。

○渡辺委員（全日本運輸産業労働組合 新潟県連合会執行委員長）

スルーセンターは、到着19時頃から終了21時との説明だったが。スルーセンターとは24時間対応なのか。

発荷主A)

@ スルーセンターにはいろんなメーカーが入っているので、有効に活用するためメーカー毎に時間の制約がある。当社は何時から何時までに卸させて欲しいと連絡をし、調整を

している。

2) 平成29年度パイロット事業について

資料に基づき事務局（新潟運輸支局 竹村首席運輸企画専門官）が説明

- ・ H29年度の対象集団選定にあたり、発荷主、運送事業者、元請事業者には説明し快諾頂いている。なお着荷主については現在検討中であり、着荷主によって輸送品目が決まる。
- ・ 本来であれば、いくつか対象集団を選定し本協議会で委員の意見を踏まえ決定したかったが、昨年度同様選定に難儀した。
- ・ 次年度は、厚生労働省予算による実施を予定しており、契約の関係上のことから早々の選定が必須であった。
- ・ 今年度も新潟の地域の特性として「米」に着目。
- ・ 米は全国で作付けをしており、収穫期の繁忙時期には自家用トラックによる有償運送も許可しているくらい輸送が大変であり、これの実施によって全国的に大変参考となることから、委員でもあるJA全農にいがたに協力を要請したが、種々の事情により協力を得られなかった。

【意見等委員発言】※回答は、事務局（新潟運輸支局 竹村首席運輸企画専門官）

○堀川代理委員（日本労働組合総連合会新潟県連合会 地方委員）

対象集団として選定した発荷主、運送事業者は取引の中で労働時間が長い、改善しなければならぬ等実際問題があることを認識したうえで依頼したのか。

@ 荷主、運送事業者共に改善をしていこうという気持ちから協力を得ている。例え改善基準告示の範囲内であっても改善を図りたい事業者と認識している。

○高杉委員（特定非営利活動法人 新潟県消費者協会 事務局長）

顧客ニーズの対応のためや不定時不定量の出荷が作業手順を狂わせていると読み取れる。トラックのピックアップ直前まで数量が決まらないケースもあり、そこが一番の問題なのかと思う。わがままな消費者の存在が、販売店からメーカーに無理な注文をすることが始まりとを感じる。

作業効率については、人によって、能力によって時間にバラツキがあったことを今回事業者の中で平準化することはすばらしい。29年度も発荷主で何かいい仕組みが出来れば改善の余地がある。

やはり消費者がニーズにより発注をする販売店を改善しないと根本的に改善しないと思う。消費者のニーズということで、売り手があまりに考え過ぎて過剰なサービスになっているのではないか。それで世の中がクビをしめている。便利になりすぎている消費者もそうだが、消費者もそこまで求めていないともいえるのではないか。

○市村委員（長岡トラック株式会社 代表取締役社長）

発荷主、運送事業者について改善もさることながら、現状としての問題点をしっかり出してもらいたい。どのように改善出来たかという報告が出来るようにしてもらいたい。

長距離配送は長時間労働になりやすいと思うが、そういう点も出してもらいたい。やはり物流の主流はケースモノ、お米、食品等となるので事業の中で問題点と解決策が出されるのは良いことと思うので、よろしく願います。

【決定事項】

事務局提案を承認されたものとして、29年度実施していくことになった。

- (2) 地方協議会におけるパイロット事業の進捗について
資料に基づき北陸信越運輸局松岡貨物課から説明

3. その他

- (1) 下請等中小企業の取引条件の改善に向けて
資料に基づき関東経済産業局 渡辺下請代金検査官から説明
- (2) 長塚座長（委員）退任の報告
事務局（新潟運輸支局 竹村首席運輸企画専門官）から退任の経緯等説明

4. 閉会

- (1) 開会挨拶

○梅澤委員（新潟労働局長）

皆様年度末のお忙しいところ、お集まりいただき誠にありがとうございました。

本日は平成28年度のパイロット事業の結果報告があったが、荷主、運送事業者及びコンサルタント様にご協力をいただき重要なことが良くわかったことと思う。改めて感謝申し上げる。

新潟県内の事業者はもちろん、全国に広く公表される重要な結果であり、契約の問題はあろうかと思うが皆様が経験したことを残すことなく報告書に載せてもらいたいと事務局として願う。

平成29年度は報告したとおり発荷主、運送事業者を中核として関係者が決まり、正式にプロジェクトが始まることをご了承いただき深く御礼申し上げます。

労働行政としての動きについて一言紹介したい。今一番注目されていることだが労働基準法の36条時間外労働協定の上限のこと。現在確たることとして動いているのは昨年12月末に「過労死等ゼロ」緊急対策が定められ、1月20日に事業所に守っていただくべき労働時間適正把握のガイドラインなどいくつかの取組みをお願いしている。労働時間問題については、個別事業所のみではなく全社的対応をお願いしている。また実は企業名を公表が行政として取り組んでいることを紹介させてもらう。

事務局から紹介があったが、長塚先生には5回に渡る協議会で良いリード、ご指導をもらった。ご自身のご経験を当協議会にインプットしてもらい私個人も勉強させてもらった。大変お世話になった。

本日は誠にありがとうございました。

閉 会